



特集

## 環境絵日記展を支える 『素人集団』の奮闘の日々



リサイクル組合が取り組んでいる社会貢献活動のうち、最も規模が大きい事業が環境絵日記の取り組みと、その発表、表彰の場である環境絵日記展のイベントです。この環境絵日記は、小学校の子どもたちが家族と話し合って、環境問題について考えたことを絵日記に描くもので、今年で15年目を迎えます。そこで今回は、年々規模を拡大して開催される環境絵日記展のイベントを陰で支え続けてきた組合員たちの奮闘の様子をご紹介します。

撮影協力：横浜港大さん橋国際客船ターミナル



# 環境絵日記展を支える 『素人集団』の奮闘の日々

15年目を迎えた環境絵日記に  
参加した子どもたちは延べ12万人

子どもたちが環境問題を  
考えるきっかけになりたい

リサイクル組合が取り組んでいる「環境絵日記」については、すでによくご存知の方も多いと思います。本誌で何度もご紹介しましたが、改めて簡単にご紹介しておきましょう。

環境絵日記は、横浜市の小学校の子どもたちに夏休みの取り組みのひとつとして、環境問題について考えたことを自由に描いてもらう絵日記です。この絵日記を描くことをきっかけに、家族や身近な人たちと一緒に自然や環境、横浜の街や将来の社会などについて話し合ってもらうことが目的です。

小さい頃から身近な話題として環境問題について話し合うことは、とても大切です。環境絵日記に参加することで、毎年夏になるとみんなで環境についていろいろな話をし、考えることとなります。このことが環境教育のひとつとして正しい環境知識と消費行動を育む一助となると考えています。自然環境や快適な生活

環境を守るためには継続的な保全活動が欠かせません。地球の未来は子どもたちのためにあります。この国の将来を担う子どもたちこそ、環境問題に強い関心を持つてもらう必要があるのです。

環境絵日記は今年で15年目を迎えました。最初の年に小学6年生で参加した子どもは、現在27歳の大人になっています。これまでに延べ12万人以上の子どもたちが参加しており、環境絵日記を通じて環境問題の大切さに気づいてくれた子どもたちがたくさん育っています。

今年3月には、現在の横浜市のごみの分別の問題点について考えるワークショップに、小学生時代に環境絵日記に応募した経験のある大学生、高校生らが参加して、意見交換を行いました。

**組合が全勢力を傾けて  
取り組む大イベント**

今年も環境絵日記は、夏休みを間近に控えて準備が佳境を迎えています。そこで、環境絵日記が毎年どのように開催されているのかをご紹介します。

## ●「環境絵日記」の歩み 1995年～2013年

**1995～1999年** 古紙委員会主催で古紙に関するフォーラム(第1回～第5回リサイクルデザインフォーラム)を開催

**2000年** 横浜市旭公会堂で第6回リサイクルデザインフォーラムを開催し、子ども環境会議と環境絵日記発表会表彰式を行う。横浜市内の小学生を対象に環境絵日記を募集。

**2002年** 日韓国民交流年にあたり、2002年日韓国民交流年記念事業に登録し、環境絵日記による韓国との国際交流を行う。

**2003年** G30がスタートし、環境絵日記のテーマにG30を盛り込む。横浜駅東口新都市プラザで「環境絵日記展示会」を開催し、市民による投票で「横浜市民賞」を決定。

**2004年** 大さん橋CIQプラザで第10回リサイクルデザインフォーラムを開催。リサイクル組合のキャラクター「りくみちゃん」誕生。環境絵日記の展示に加え、ブースを出展した体験型環境フェスティバルとなる。

**2005年** リサイクルデザインフォーラムの活動が「市民が創る環境のまち“元気大賞”奨励賞」を受賞。

**2009年** 環境絵日記が10周年を迎え、応募総数が1万作品を超える。

**2010年** 富士ゼロックス協力で絵日記のデータ化が実現し、作品をWEBにて公開。環境絵日記実行委員会を立ち上げ、横浜市の協力を得て事業の拡大を目指す。JICA横浜・総合住宅展示場横浜ホームコレクションで展示会を開催。

**2011年** 京急百貨店にて水と緑の環境絵日記作品展開催。ヨコハマ海の青と都市の緑を守るフェアで展示会を開催。北海道下川町と戸塚区川上町、京都府宮津市との絵日記の交流を実施。「環境絵日記2011」の応募作品1枚につき、岩手県釜石地方森林組合の森林整備によって創出された排出権を1kg調達し、日常生活で排出されるCO<sub>2</sub>の一部分をカーボン・オフセット。

**2013年** この年からリサイクルデザインフォーラムの名称を改め、環境未来都市・環境絵日記展2013として開催。横浜市内の優秀賞587作品を18区のブロックに分けて展示。「環境絵日記コンシェルジュ」を会場内に配置。横浜市以外の環境未来都市に制定されている北海道下川町、宮城県東松島市、福島県南相馬市、千葉県柏市の他、高知県、京都府宮津市、さらにブラジル連邦共和国クリチバ市など応募。後援企業・団体が7団体、協賛企業・団体が84団体、協力企業・団体が7団体となる。新たに地元企業賞を創設し、希望の地域から応募された作品を選出し、学校での表彰式を実施。港南台高島屋で環境絵日記作品展開催。環境絵日記の取り組みが平成25年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞。

環境絵日記の準備は年が明けてすぐが始まります。準備しなければならない業務は、大きく分けて3つ。「環境絵日記展の開催に関する業務」「絵日記の募集・選考・管理に関する業務」「環境絵日記展以外の出展・展示に関する業務」です。それぞれの業務は、さらに細かい項目に分かれていて、その数は23項目もあります。実際の作業を見ていきましょう。

1月に共催・後援を依頼するための企画書づくりが始まり、提案、申請、承認までの作業が4月まで続きます。同時に、協賛団体を募るための企画書も用意し、さまざまな企業、団体に協賛をお願いし

て廻る作業を7月まで行います。

4月からはいくつかの業務が同時に進行します。ひとつは、横浜市内の小学校に対する参加の呼びかけです。校長会を訪問して説明を行い、6月には全小学校342校にポスティングを実施。応募用紙は希望される部数を追加送付します。次に告知と募集用のホームページを開設します。募集ポスターの制作も4月から始まります。さらに、環境絵日記展を開催する会場も忘れずに予約しなければなりません。同時に、会場の展示レイアウト、リサイクル組合が実施する企画、ステージイベントなどの検討もスタートし、

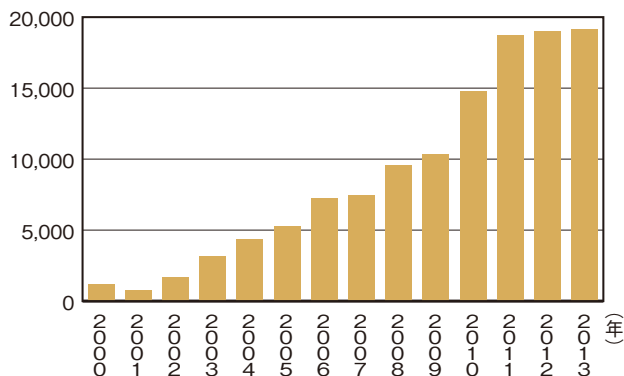
## 子どもたちが参加できる環境問題コンクールを考案

その準備は開催直前まで続きます。

7月からは、市民選考員の募集、作品の受付・デジタルデータ化作業、選考会の実施、作品のネット公開などの作業が始まり、10月まで続きます。こうして10月の環境絵日記展というメインイベントを迎えます。その後も、11月、12月に開催されるさまざまなイベントで環境絵日記の展覧や展示を行います。やがて年が明けて1月を迎えると、休む間もなく次の環境絵日記展の準備がスタートするのです。

「環境絵日記」応募作品数の推移

出典：リサイクル組合



10月の環境絵日記展を中心に1年間の作業スケジュールをご紹介しましたが、最初からこのようにきちんと進行管理ができたわけではありません。リサイクル組合の組合員たちの本業は、あくまでリサイクル業。イベントに関しては全くの素人でした。ここからは、環境絵日記をスタートした当時のことをエピソードを交えて振り返っていきます。

環境絵日記がスタートしたのは2000年。当時、『月刊リサイクルデザイン』で、リサイクルの実情や分別の大切さを記事にしていたが、本誌を読んでいる方たちに、もっとリサイク



ルのを知ってもらうことが課題でした。すでに1995年から「リサイクルデザインフォーラム」という名称で古紙に関する討論会を行っていましたが、まだ小さなイベントでしかありませんでした。そこで、子どもたちとその家族が参加できるイベントを開催することにしたのです。

しかし、どんなイベントをすればよいのか迷いました。絵画や作文コンクールも検討されましたが、すでにたくさんコンテストが行われていました。それに、コンテストは、絵や作文の上手な子どもたちがばかりが選ばれ、苦手な子どもが参加しづらくなってしまいます。そこで、大勢の子どもたちが参加できて、自由にリサイクルのことを考えてもらうにはどうしたらいいかと知恵を絞った結果、「絵日記」にたどり着いたのです。

絵日記ならば、絵や文章があまり上手でなくてもリサイクルのアイデア、環境に関する自由な発想を表現することができます。さらに、1年生から6年生まで幅広い年齢の子どもたちの作品をより平等に審査することができるのです。

この絵日記のコンテストをリサイクルデザインフォーラムと合体させ、子どもたちと一緒に環境問題のディスカッションをしたり、優秀作品の表彰式を行うことにしました。市民参加型のイベントに

することで注目が集まりやすくなり、情報発信力も高めることができると考えました。こうして「環境絵日記展」が誕生したのです。

## 初めはプログラムに必要な 台本のことを知らなかった

最初の環境絵日記展は、横浜市旭公会堂で開かれました。絵日記は入り口の廊下に展示し、子どもたちによる「環境会議」と優秀作品の表彰式だけのシンブル

# 毎日深夜まで議論し イベントづくりに熱中する

な内容でした。会場を盛り上げるイベントなどはありません。それもそのはずです。このイベントを開催したのは、まったくの素人たちだったからです。

リサイクル組合には、イベントを開催するには何をすればいいのかわかっている組合員が誰もいなかったため、市民活動などのイベントに携わっている方に、どんな準備が必要なのかを教えてくださいました。ステージ上で行うディスカッションや表彰式などのプログラムには台

本が必要だということもこの時、初めて知りました。それからは、連日深夜、組合事務所まで深夜まで議論を重ねながら、台本づくりに追われたのでした。

第2回はパシフィコ横浜アネックスホールで、横浜市主催のイベントに併設して開催しました。しかし、作品展示場とステージが別のフロアだったため、作品を見に来たお客様がほとんどステージに来てくれませんでした。ステージイベントとして、組合員が白衣姿の博士役に

なり、リサイクルに関する質問に何でも答えるという出し物を用意していたのですが、スタートしてはじめての10分間は、客席に一人も子どもがいませんでした。

## 規模拡大にともなって マンパワー不足に陥る

第1回の環境絵日記の応募作品数は1152点、入賞作品293点で、環境絵日記展の来場数は442名でした。やがて回を重ねるごとに、応募作品数が

現在も使用しているオリジナル製作の12角形の段ボール柱による展示。



丸テーブルに組合員手製の12角形の段ボール柱を乗せて展示。



環境絵日記の展示の変遷。  
初めの頃は掲示板に貼って展示。



増えていきます。ところが、作品数が5000点、7000点と増加していくに従い、さまざまな困難が待ち受けていたのです。

まず、困ったのは作品の審査です。子どもたちが一生懸命に描いてくれた作品ですから、1点ずつしっかりと絵を見て、日記を読んで審査をしなければなりません。しかし、子どもの手書き文字を読み進むのは意外に時間がかかります。仮に1作品を見るのに3分かかるとして、1000作品見るには50時間がかかり、5人で担当しても10時間が必要になります。そのため、第2回からは市民選考会と最終選考会の2段階審査を導入することになりました。

そんな中、第3回から環境絵日記展の実行委員長を務めた組合員が、「子どもたちに感謝の気持ちを込めて、自分だけは応募作品のすべてに目を通したい」と宣言します。孤軍奮闘しながら、膨大な作品を毎年見続けましたが、作品数が7000点を超え、1万点に近づいたときに限界が訪れました。1万点のすべてに目を通すには、1作品1分ずつでも167時間かかります。24時間眠らずに続けて1週間かかる計算です。これでは審査が進みません。実行委員長は全作品に目を通すのはあきらめ、組合員が分担することになりました。

ほかにも、作品数が多くなったことで、作品自体の管理も大変になり、環境絵日記展に展示する入賞作品を間違えてしまう事態も起こりました。このような体験から、貴重な作品を紛失したり、間違えたりしないように、正確に保管・管理することの必要性を痛感したのです。

## 作品のデジタル化によって 管理と展示に革新が起る

作品の展示についても悩ましい問題がありました。環境絵日記展で皆さんに見ていただくことができる入賞作品は、わずか500作品にすぎません。しかも開催時間はたったの5時間です。組合員たちは、紹介することができない残りの作品の扱いに心を痛めていたのです。

そこで、応募作品が1万点を大幅に超えるところだった2010年に、企業に協力していただき、作品のデジタルデータ化に取り組みました。集まってくる作品を次々とスキャンしてパソコンに取り込むことで、作品をデータとして管理することにしたのです。記入されている個人情報やバーコード化して、絵日記のデータを見てもわからないようにするなどの工夫もしました。このデジタルデータ化によって、大きな変革が訪れました。スキャンを終えたオリジナル作品は、すぐに子どもたちに返却することが可能

です。そのため、作品の破損や紛失、個人データの流出も極力避けられるようになったのです。さらに、組合のサーバに保管された作品は、組合員が保有するiPadからアクセスすることで、いつでもどこからでも見ることができました。これによって、審査のために夜中まで組合事務所の会議室にこもり、1枚ずつ作品をめぐっていく必要がなくなったのです。

そして、もっとも大きな成果は、作品をウェブ上で公開できるようになったことです。デジタル化によって、本人の了解をいただいた作品は、すべて組合のホームページで見ることができるようになりました。応募作品のほとんどを皆さんに見ていただくことが可能になり、環境絵日記展の規模がどんどん大きくなることに不安を抱いていた組合員たちの心配が消えたのです。

## これからの絵日記と 今年の環境絵日記展

環境絵日記に取り組んで15年を経る間に、環境絵日記の意味とそれに取り組むリサイクル組合の役割が少しずつ変化してきました。「子どもたちが家族や身近な人たちと一緒に環境問題について考えるきっかけづくり」という本来の環境絵日記の目的は変わっていません。しかし、そこに描かれている絵日記の内容が、実

は、私たち大人が作ろうとしているこれからの世の中に対する強いメッセージになっていることに気づいたのです。環境絵日記は、「子どもたちから大人たちの社会に向けたメッセージ」だったのです。リサイクルや環境に関する考えやアイデアが描かれているだけではなく、これからの街づくり、未来の社会についての提言でもあるのです。

そのため、リサイクル組合の役割は、子どもたちが環境問題を考えるきっかけをつくることで終わるのではなく、環境絵日記に描かれた「子どもたちのメッセージ」をより多くの大人たちに向けて発信していくことも必要なのだと考えるようになりました。

毎年、約2万人の子どもたちがこれからの街づくり、未来の社会についてさまざまな意見を表明してくれていると考え、環境絵日記の役割は決して軽いものではありません。そのことをしっかりと受け止め、より永く環境絵日記を継続し、子どもたちから預かった未来への提言を皆さんにお伝えしていかなければならないのです。

今年の環境絵日記展は10月26日(日)に横浜港大さん橋国際旅客ターミナル内の大さん橋ホールで開催されます。ぜひ会場で、子どもたちからのメッセージをご覧になってください。



# 始末の一品

Rd



## 今月の食材【スイカの皮とゴーヤのわた】

夏の食材のゴーヤとスイカ。スイカの皮の白い部分は冬瓜と同じように調理するとおいしい一品になります。ゴーヤのわたは普段は捨てる部分ですがちゃんと食べられます。

## スイカの皮のアジアンなます

材料(2人分)

- スイカの皮……1/8個分
- にんじん……7cm程度
- 調味料……塩少々、唐辛子のみじん切り1/2本、ナンプラー小さじ1、すし酢大さじ1、白ごま小さじ1

- 1 スイカの皮は緑の固い部分と食べ終わった赤い果肉部分を取り除く。白い部分を千切りにして塩もみして10分程度置いておく。にんじんも太めの千切りにして軽く塩を振っておく。
- 2 塩がなじんだら手で軽く絞って水気を切る。
- 3 スイカの皮とにんじんをボールに入れ、調味料を混ぜ合わせ、冷やして食べる。



## ゴーヤのわたトースト

材料(トースト1枚分)

- ゴーヤのわた……1本分
- 食パン(6枚切り)……1枚
- マヨネーズ……小さじ1
- 粒マスタード……適量

- 1 ゴーヤのわたは中のタネを取りのぞき、塩を少々入れた熱湯でさっと茹でる。
- 2 ざるにあげ、よく絞ったら適當な大きさに手でちぎってマヨネーズ、粒マスタードと和える。
- 3 食パンにマヨネーズを薄く塗り、②を乗せてパンの周りがこんがりとし色がつくまでトーストする。





## 今年も「環境絵日記」を募集します！

「環境絵日記」は、環境問題や環境保全について、子どもたちが家庭で話し合ったことや自分で考えた内容（視覚的表現）と文章の組み合わせで自由に表現する絵日記です。

小学生の頃から環境問題を家族で考えることで、子どもたちが正しい環境知識を持ち、「新しい環境意識」を育んでいくことを願って、毎年、夏休みに横浜市内の子どもたちから絵日記を募集しています。

昨年は過去最高の1万91

28作品もの応募がありました。また、「環境絵日記」の取り組みが、環境省主催の「平成25年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞しました。

今年で15回目となる「環境絵日記」のテーマは、『家族や身近な人たちと考える環境未来都市』です。「こんな未来になったらいいな」「こんな『未来』にしていきたいな」など、あなたが思う「環境未来都市」について描いてください。

### 【募集要項】

■作品テーマ…『家族や身近な人たちと考える環境未来都市』

■応募資格…横浜市の小学校に通う1～6年生（自筆・未発表の作品）

■応募用紙…在学の小学校で環境絵日記専用の応募用紙を入手しご使用下さい。（※入手できない場合はお問い合わせください）

■作品の描き方…絵の具、色鉛筆、クレヨンなどを使って絵を描いて下さい。（絵と文は応募用紙からはみ出さないように描いてください）

■応募方法…在学の小学校へ提出してください。締め切りは9月4日（木）まで

■審査結果の発表…10月26日（日）横浜港大さん橋ホールにおいて開催される『環境未来都市・環境絵日記展2014』の会場内で優秀特別賞の発表及び表彰を行います。また、リサイクルデザイン賞（入賞作品）を会場内に展示します。さらに、当日の会場で「環境絵日記」への応募者全員に来場記念品を贈呈します。

### ■表彰…

#### ◆個人の部

環境絵日記大賞（1作品）及び優秀特別賞を数点（約20作品）

リサイクルデザイン賞（入賞作品）…全作品の中から500作品程度

#### ◆団体の部

学校賞…入賞数の多い上位5校を表彰



■問合せ先：横浜市資源リサイクル事業協同組合『環境絵日記』係

TEL：045-444-2531 FAX：045-444-2532 HP：<http://www.recycledesign.or.jp/>

リサイクルデザインのバックナンバーは、ホームページからもご覧いただけます

<http://www.recycledesign.or.jp/rd/>

スマホ、タブレットなどはこちらのQRコードからアクセスできます。



## お中元に最適！新製品・ダブルセット

ダブルセットは、新製品のさわやかダブル24ロール、おなじみのりくみのティッシュ12箱、小結くんお試し巻き(30m)1巻の詰め合わせ。お中元用に熨斗紙をお付けしてお届けいたします。

価格は1セット **2,570円**から (5セット以上のご注文には割り引きあり)



お問い合わせ 横浜市資源リサイクル事業協同組合 事務局 山中 TEL：045-444-2531 E-mail：[mail@recycledesign.or.jp](mailto:mail@recycledesign.or.jp)